

## 第 58 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

### <矢作川上流圏域>

日時：平成 29 年 1 月 12 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分

場所：ウインクあいち 12F1201 室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議題

#### 矢作川上流圏域（第 3 回）

- 河川整備計画の方向性
- 河川整備計画（原案）の提示
- 第 2 回住民アンケート（案）の提示

#### 5. 質疑

##### ○委員

P.18 から P20 に記述されている平戸橋下流部の流量について、指定区間の計画高水流量や通過流量、国交省の計画高水流量など、同じ地点でそれぞれ数字が違っていきにくいので、教えて欲しい。

##### ○事務局

平戸橋下流地点では、国土交通省の基本方針(1/150)の通過流量が 5,300(m<sup>3</sup>/s)。国土交通省の河川整備計画(東海(恵南)豪雨と同程度の規模の洪水)の通過流量が 3,800(m<sup>3</sup>/s)。今回策定する県の河川整備計画(1/30)では 3,300(m<sup>3</sup>/s)となります。

##### ○委員

直轄と指定区間では、1/30 と言うことで、整合がはかられているのか。

##### ○事務局回答

直轄区間は、東海豪雨の実績規模で概ね 1/50～1/80 の規模に相当します。指定区間では、まずは 1/30 の規模の整備を行う予定です。上下流のバランスで整備規模に差がありますが、堤防の位置及び高さ、河床の高さについては不整合がないように調整を行っています。

##### ○委員

資料-1 で、「東海豪雨は既存施設に対して超過する規模であることの説明が必要では」という問いに対して、「東海豪雨の実績洪水を安全に流下できる」と解答しており、解りにくい説明となっている。

##### ○事務局

直轄区間は、東海豪雨の実績雨量に対して矢作ダムを操作規則に従って操作した場合の流量を想定しています。一方、実際には矢作ダムでの洪水調節に余裕があったため、当時、指定区間に流下した流量は 3,300(m<sup>3</sup>/s)となっています。この流量が、1/30 確率流量と一致している

ため、上記の表現としています。

#### ○委員

そうすると、東海豪雨の実績流量は、上流で溢れたり、ダムで貯留するなどを含めた値となるが、資料－1の表現は、どのような場合でも流せるように読めてしまう。

#### ○事務局

誤解の無いような表現とします。

#### ○委員

複数のダムが出来たことにより、昭和47年の七夕豪雨の以降は、SSが下がってカナダモが増えたと考えられる。また、カワヒバリガイはダム湖が出来たから発生した生物である。このような矢作川で、「かつての矢作川」とは、何を指すのか、非常に曖昧であるため、議論の必要がある。また、ダムの砂を下流に流すと、富栄養化が生じる確率が高くなるため、良く議論して欲しい。

#### ○事務局

「かつての川」とは、いつの時代なのかというものではなくて、場所や時代によっても変わるのかもしれない。地域や市役所と目指すべきより良いものは何なのかをよく相談をしながら検討を進めていきます。土砂については、国土交通省と議論しながら取り組んでいきます。

#### ○委員

P.45の図について、現在の状況の方が川底に深みが出来て良くなったとも考えられる。誤解の無いように表現して欲しい。河畔林は遷移していくものだが、落ち着いた状態であれば下手に手を入れない方が良い。竹林についても間伐を行えば現状を維持出来るが30年後まできちんと維持できるのか地元としっかり話して進めた方が良い。今後30年の計画で、竹林を維持しようと書くことが本当によいのか。後世に負担を残すような計画とならない方が良い。

#### ○事務局

「かつての矢作川」は、当時と今とでは変わってきていることもあり、すべての場所でこのような水際を目指すことは出来ないと考えている。矢作川上流圏域として目指す姿の具体化に際しては関連機関と調整し、議論して進めていきます。

#### ○委員

P.22でその他の区間で再度災害防止の観点から嵩上げなどの整備を実施するとあるが、パラペットなどを暫定的に整備するとも説明があった。どういう対応を考えているのか。

#### ○事務局

区間毎にどのような対策が望ましいかを地元の方や市役所と十分に議論した上で整備していくこととなります。また、一度災害に遭っている地区でもあるので、より身近なレベルでのソフト対策を重視するべきとの意見も伺っているので、市役所等とどのような対応が出来るか今後検討をしていきます。

○委員

例えば東海豪雨の再度災害防止ではないので、どの程度の災害を対象としているのか表現が曖昧なことが気になる。

○事務局

浸水被害の頻度を軽減するなど、ご指摘の観点を踏まえて表現を推敲します。

○委員

p.33 の正常流量の表現で、4つの区間で検討しているが、目標の項目に1箇所の実績流量のみを記載しているのは何故か。これは目標の記述としてふさわしいか。また、平均流量も渇水流量も同じ値はおかしいのではないか。

○事務局

P.51 の目標には代表地点の流量として記載したが、正常流量の値については検討値であるため計画本文には記載しません。渇水流量などはデータを再度チェックします。

○委員

越戸ダムで止められた水が発電に使われ、どこに流れるのか、解りにくい。

○事務局

P.33 の図などに模式図で示しています。

○委員

アンケートに「上流圏域」の定義が記載されているが、小さすぎて解りづらい。

○委員

見開きの地図に対象区域などをもう少しはっきり記述した方が良い。

○委員

アンケートに記載されている整備区間の色分けは何を表現しているのか、解りにくい。

○事務局

色や大きさなどを調整して、見やすく解りやすく表現します。

○委員

アンケートの間2①の質問で、A、B、Cの項目などがパンフレットの記載とリンクするのであれば、解るように記載した方がよい。また、問3の内容はパンフレットのどこを見ればよいのか解りやすくした方がよい。イラストが入ると、更に解りやすくなる。また、パンフレットでは、骨子の概要の解説の箇所が、ゴシックの太字になっているので、読みづらいし、規模が行で別れていて解りづらい。

○委員

課題の中で整備計画を述べているが、先走っているように感じる。

○事務局

いただいたご意見を踏まえ、表現を工夫します。

○委員

ネットアンケートは導入するのか。

○事務局

地元の方の意識も高く、現行のアンケートでも回収率も高くなると考えている。ネットアンケートは、手軽さはあるが、どこにお住まいの方かなどの課題もある。

○委員

ネットアンケートはプラスアルファとしての話。また、通常のアンケートは年代が高いため、今後の計画を学生などに伝えるためにも、ネットアンケートを導入して欲しい。

○事務局

広い世代へのPRすることは重要です。考慮します。

6. 閉会